



森林環境教育ネットワークメールマガジン 第187号 (平成 30 年 2 月 26 日)



(目 次)

- 1 <林野庁プレスリリースから> 平成 30 年全国山火事予防運動の実施について
- 2 <コラム> 森林環境教育の現場から(128)
- 3 <図書紹介> 「みぢかな樹木のえほん 生きものやくらしとつながる「一本の木の物語」」(ポプラ社)
- 4 <森林・林業白書から> 漆供給による地域の伝統産業への貢献
- 5 <樹をとりまくはなし>(8) 虫が出たからーウメー
- 6 <イベント情報>
 - ◆FUN! FOREST!!～初心者のための森づくり体験会～
 - ☆ 事務局から



森林環境教育ネットワーク <http://www.shinrinreku.jp/feenet/index.html>
《バックナンバー<http://www.shinrinreku.jp/feenet/php4/mlbk/index.php>》
《イベント情報の登録・閲覧 <http://www.shinrinreku.jp/feenet/einfo/>》
一般社団法人全国森林レクリエーション協会 <http://www.shinrinreku.jp>



1 <林野庁プレスリリースから> 平成 30 年全国山火事予防運動の実施について

林野庁は、「平成 30 年全国山火事予防運動」を 3 月 1 日(木曜日)から 7 日(水曜日)にかけて実施します。

平成 30 年の統一標語は、「小さな火 大きな森を 破壊する」です。

山火事予防運動について御理解御協力のほどよろしくお願いいたします。

○山火事予防の重要性

例年、冬から春にかけて、山では枯葉や枯草が多くなることに加え、空気の乾燥や季節風あるいはフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生の危険性が高い時期となります。山火事はいったん発生するとその消火は容易ではなく、一瞬にして貴重な森林を焼失するとともに、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなります。

とりわけ、これから暖かくなるにつれ、山に入る機会も多くなりますが、特に、空気が乾いている日や風が強い日には、たき火や野焼きをしないなど、火の取り扱いには十分な注意が必要です。

○平成 30 年全国山火事予防運動について

○目的

この運動は、広く国民に山火事予防意識の啓発を図るとともに、予防対策を強化し、森林の保全と地域の安全に資することを目的とします。

○主唱

林野庁、消防庁

○統一標語

「小さな火 大きな森を 破壊する」

○統一実施期間

平成 30 年 3 月 1 日(木曜日)から平成 30 年 3 月 7 日(水曜日)まで(消防庁等が実施する春季全国火災予防運動と同一期間)

なお、地域における山火事発生状況等を考慮した効果的な運動の推進を図るため、当該期間以外の期間を山火事予防運動の実施期間とすることも考えられます。

○山火事予防に効果的と考えられる実施項目

(1)ハイカー等の入山者、森林所有者、林内及び森林周辺の農地及び作業現場の作業者、地域住民、小中学校の児童・生徒等を対象に次の重点事項の啓発活動を実施します。

- ・枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと
- ・たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消化すること
- ・強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
- ・火入れを行う際、許可を必ず受けること
- ・たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いながらは必ず消すと同時に、投げ捨てないこと

と

- ・火遊びはしないこと

(2)駅、市町村の庁舎、学校、登山口等への警報旗、山火事予防ポスター等の掲示やテレビ、ラジオ、有線放送、新聞、インターネット等の各種広報媒体の活用等により、入山者、地域住民等に対し山火事予防意識の高揚を図ります。

(3)火災警報発令中など、火災の発生しやすい時期には、関係機関が協力して、住宅地等に近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど森林の保全管理体制の強化を図ることにより、火災の未然防止、早期発見に努めます。

(4)消防機関等と森林所有者が一層の連携を図るとともに、初期消火を中心とする消防訓練、研修会、予防及び消火資機材等の適切な点検、管理等を実施し、地域の実情に即した予防対策を計画的に講ずるよう努めます。

(5)地域住民、森林所有者等による山火事予防組織の育成強化を図るとともに、これらの組織が地域の防火クラブ等の民間防火組織と連携を図り、予防活動を行うよう要請します。

2 <コラム> 森林環境教育の現場から(128)

北日本の荒天のニュースが飛び交う中、北海道大雪山のふもとの森を、現役の幼稚園の先生6名とスノーシューハイクしてきました。気温は氷点下7℃でしたが、吹雪の止んだ森は意外に暖かく快適でした！保育活動に活かしてもらいたいので、フィールドサイン探しをして動物の行動を想像するつもりでしたが、森は新雪が積もり動物の姿も痕跡も森には残っていません。そこで、真っ白な雪上に樹木が立ち並ぶ景色を鑑賞、ダ

ケカンバ、アカエゾマツ、トドマツなどの極寒地で生き抜いてきた姿からその歴史を想像しました。「ここの傷は凍裂と言って、木の内部が凍って破裂した後です。」「大変なことですね！」「そうですね。木はダメージを受けます。でもこの裂け目は生き物の冬越しのすみかとして利用されるかもしれません。枯れたとしてもそこは虫たちの餌場となり、鳥たちを呼び、種が運ばれ豊かな森ができるかもしれません・・・」自然のダイナミックな生き様が見られる冬の森でした。これがきっかけとなり、幼児たちが冬の森を訪れると良いですね！

(森林インストラクター 柳原 高文)

3 <図書紹介> 「みぢかな樹木のえほん 生きものやくらしとつながる「一本の木の物語」」 公益社団法人国土緑化推進機構編 平田美紗子(林野庁)絵(ポプラ社)

サクラ、イチヨウ、ウメ、スギやマツなど、校庭や街角で見かける機会も多い、身近な樹木を 30 種選び、その木にはどんな生き物がいるのか、また幹や実などがどんなふう
に私たちの暮らしに利用されているのかを紹介するイラスト図鑑です。全体の樹形や
春夏秋冬の変化の特徴なども美しいイラストで理解することができ、人々の暮らしとの
つながりは小学 3 年生のリン子ちゃんが主人公の漫画で楽しく学べます。

(平成 30 年 4 月 1 日発売 21cm 143 ページ 2,500 円(本体価格 税別))

主要目次

はじめに

この本の使いかた

知っておきたい樹木の基本

この本に登場する人物

サクラ/カエデ/スギ/マツ/ヒノキ/クスノキ/イチヨウ/ケヤキ/エノキ/コナラ/クヌギ/スダ
ジイ/ドングリを知ろう！/トチノキ/ツバキ/ヤマモモ/ウメ/キリ/ヒイラギ/アオキ/シラカ
ンバ/ブナ/キノコを知ろう！/シュロ/フジ/ツツジ/ソテツ/サンショウ/カキノキ/ユズ/ク
ワ/カシワ

まとめにかえて

- 1 日本の森林の今と、みんなでささえる森づくり
- 2 "森のための4つのアクション"で、「森のもつ8つのチカラ」を取り戻そう！
- 3 世界の森林の持続可能な管理と生物多様性保全
- 4 「生物多様性と子どもの森」キャンペーン実行委員会

おわりに

さくいん

4 <森林・林業白書から> 漆供給による地域の伝統産業への貢献

漆は、漆器、家具、美術品等の塗料として使われているほか、皇居正門や日光東照宮をはじめとした全国の文化財修繕において必要不可欠な資源である。また、平成 27 (2015) 年から、国宝や重要文化財の修繕には原則として国産の漆を使用することとさ

れたが、現在、そのほとんどを輸入に頼っている状況である。

岩手北部森林管理署(岩手県八幡平市)と岩手県二戸市の漆生産者等は、分収造林契約を締結し、国有林野のウルシから採取された樹液(原料生漆(きうるし))を供給することで、地域の伝統的工芸品である浄法寺漆器の制作に貢献している。

(平成28年度森林・林業白書 事例から)

5 <樹をとりまくはなし>(8) 虫が出たからーウメー

学校の梅林にカイガラムシが出たのですが、学校なので薬がまけないので、剪定をしてしまったのです。かなり太い枝を切り、丸坊主にしてしまい、ほとんどのウメは枯れてしまいました。切った人は「虫で枯れた」と言うのですが、虫で木が枯れることはほとんどありません。日本の木に耐性がない外国の害虫とか、あるいは木がすでに瀕死の状態、虫がとどめを刺してしまったことはありますが…

なぜか木の手入れ＝剪定となっていて、元気がないときは葉がとても重要なのに、剪定されてしまいます。このとどめの剪定により、枯らすことが多いのではないのでしょうか？

虫などが出るということは、少し元気の無い時が多いので、そんな時ほど葉は大事にしないと乗り越えられません。また剪定し始めると、腐った枝を全部切ろうとして丸坊主になってしまいます。ウメは切られることが多いので、幹が腐ることは多いです。葉があれば腐ったところを封じ込められますが、おいつかないほど枝葉を切られるのでウメは腐っているのです。

(森林インストラクター・樹木医 岩谷 美苗)

6 <イベント情報>◆FUN! FOREST!!～初心者のための森づくり体験会～

◆FUN! FOREST!!～初心者のための森づくり体験会～

森の中にいると元気になれる。そう感じたことはありませんか？

東京の多摩地域に広がる森は、私たちの暮らしと密接につながっています。

おいしい空気、きれいな水。

自然を育む豊かな森。

森が元気であるためには、人の助けが必要です。

たまには、道具を片手に森に入ってみませんか。

木を伐った森に差し込む木漏れ日。

流れる汗を拭うさわやかな風。

森に響く音と歓声。

疲れた身体にしみわたる一杯。

森と人が笑顔でつながる。そんな体験いかがですか？

◇詳細・申し込みはこちら→[https:// www.moridukuri.jp/ forumnews/ 180215.html](https://www.moridukuri.jp/forumnews/180215.html)

【自然に触れる7つのプログラム】

7つの森づくり団体が、それぞれの場所や特徴を活かし、
森の魅力を伝えるプログラムをご用意しました！

- 3月17日(土) 9:00 京王線高尾山口駅
体験内容:間伐・除伐
対象:小学生以下は保護者同伴
担当団体:高尾グリーンクラブ

- 3月21日(水・祝) 9:00 JR中央線高尾駅
対象:高校生以上
体験内容:丸太切り・道づくり
担当団体:お日の森くらぶ

- 4月8日(日) 9:30 JR青梅線 奥多摩駅
体験内容:間伐・枝打ち
対象:高校生以上
担当団体:奥多摩・山しごとの会

- 4月15日(日) 9:30 JR青梅線 鳩ノ巣駅
体験内容:道づくり
対象:中学生以上
担当団体:鳩ノ巣協議会

- 5月13日(日) 8:40 JR五日市線 秋川駅
体験内容:下草刈り(ボサ刈り)・竹林整備
対象:高校生以上
担当団体:花咲き山整備隊

- 5月27日(日)8:30 JR青梅線 御嶽駅
体験内容:下草刈り(ボサ刈り)・安全活動
対象:高校生以上
担当団体:森の安全を考える会

- 6月2日(土) 8:40 JR中央線 高尾駅
体験内容:間伐と玉切り
対象:小学生以上(小学生は保護者同伴)
担当団体:パウロの森くらぶ

[募集人数]各回 15名(先着順)

[参加費]各回 200円

[申込方法]

